



木を切って家を建てる。暮らしのための山林は、里山と同様に自然のようでいて自然ではない。わたしたち人の手が入って初めて維持することができる、いわば「作られた自然」だ。森に棲む動物たちの生態系を守りながら、定期的に木を伐採し、山に光を入れ、風通しを良くする。そして若木を植える。豊かな森が育ち、水源や多種多様な生き物の共生の場が守られるように、そして50年後の家を建てる人たちのために。山林を健康に保つこと、そして伐った木は余すことなく使い切る。それが木を使う者の責務だと思う。

冬の始まりは四季工房の家づくりのはじまり。 — 冬期・新月伐採 —



家を建てる2年前から、未来のお客様の家づくりはスタートしています。

私たちは木が成長を止める冬の三か月間（11月～1月）のみ伐採を行い、さらに杉は新月伐採に徹しています。伐採した木は葉をつけたまま、山に3か月以上寝かせ（葉枯らし乾燥）、製材したのち、天然乾燥センターにて自然の風と太陽を使って約一年半じっくりと天然乾燥をしています。そうすることで、カビがつきにくく、くるいの少ない高品質の木材に仕上がります。伐採から二年かけてようやく家づくりのできる木材となるのです。

なぜそこまでこだわるのか、機械による人工乾燥ではせっかくの木の中身が割れ、木材の良さが殺されてしまうから。場合によっては表面が炭化してしまうこともあります。天然乾燥はエネルギー消費の観点からも、大量のエネルギーを必要とする人工乾燥と比べて、究極にエコな乾燥方法です。また、作り手と住み手の健康に害を及ぼす恐れのある防腐剤を安易に使用することもありません。たとえ時間がかかる方法でも無垢材の良さを最大限に活かす方法ならば、私たちはその選択に躊躇しません。その手間ひまが私たちの誇りです。

## 家をつくることで地域を元氣にする

### — 逆転の発想から生まれた地域循環型の家づくり —

来年、創業40年を迎える四季工房、大きな転機が訪れたのは今から23年前のことでした。世の中の住宅は外国産材一辺倒で作られ、国産材が見向きもされなかったこの時代に、四季工房は大きな決断をしました。「国産材100%の注文住宅をつくろう」と。わたしたちの目指す「人と環境にやさしい家・本物の家」をつくるには丈夫な国産の木材と職人さんの確かな腕が不可欠でした。しかし国産材の需要が減り、長らく放置された山は荒廃、林業は衰退、製材所の数は激減、木の性質を見極めることのできる本物の大工さんも少なくなっているのが現状でした。なぜ国産材が売れなくなったのか?その原因は何か?木を扱う職人たちの声に耳を傾け、本当の原因と本音をていねいに聞き出しました。すると、出来ない、やらない理由の大半は時代の風潮に押された思い込みにあると気が付きました。それならば、国産材の特質を最大限に引き出す方法を考えて、職人さんの意識の転換を図り、地域の木材を積極的に活用することができれば、私たちの目指す住宅と共にその地域の林業、製材、大工さんなど多くの雇用を生み出し、地域を活性化することもできるのではと考えました。これが「地域循環型の家づくり」のはじまりです。現在もわたしたちの家づくりは地元経済への還元と、環境改善や伝統的工法の伝承など、持続可能なより良い社会の発展へ向けてひたむきに取り組んでいます。



こちらから四季工房の冬期伐採～良質な木材が出来るまでの動画をご覧になれます。

## 四季工房の家づくりは人にも社会にも環境にもやさしいんです!

### ・地元の木材天然乾燥流通センターと連携

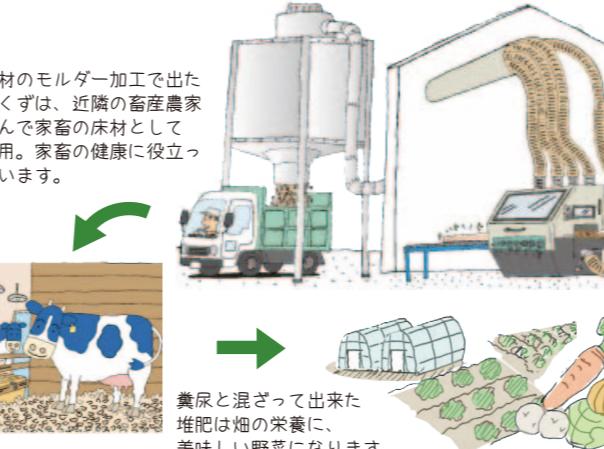


### ・一本の木を使い切る

通常捨てられている根本部分も下地材、デッキ、建具に活用。90%以上を有効利用しています。

### ・自社加工場で床材を仕上げる

床材のモルダー加工で出た木くずは、近隣の畜産農家さんで家畜の床材として利用。家畜の健康に役立っています。



### ・山の活性化

定期的に木を伐採し、植林することで山が活性化する



### ・CO2の削減

地域産材を使うことで運搬によるエネルギー負荷を減らせる



### ・住み手と作り手にやさしい

木材に防腐剤を使っていない  
気候風土にあった家  
この土地で育った木だから家自体がストレスなく呼吸



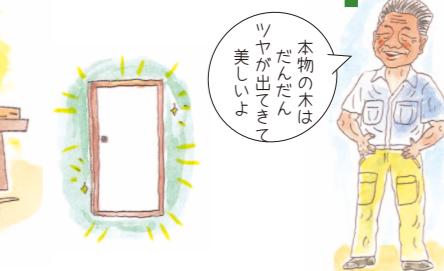
### ・大工さんの手さばき

優れた伝統工法で作られた家は強い。「ボンド」をほとんど使わないため、木材の再利用がしやすい。

匠の技を後世につたえる。



### ・建具もすべて無垢の木



※次回 2021年1月号は「新年特号」です。

新しい年の始まりにふさわしい わくわくをお届けしたいと思います。どうぞお楽しみに!